

「福島日仏協会令和2年度総会」の開催日は決まり次第お知らせします。

当初の会場手配日5月27日(水)は、新型コロナウイルス感染が拡大し自粛が求められるなか会員の方々には未通知のまま運営委員会を開き、延期といたしました。政府の【緊急事態宣言解除発令】が出されましたが、状況判断を慎重に行い「総会開催日」を文書にて1ヶ月前にはご案内する予定です。

日々の生活に気配りしながら、新型コロナウイルスに感染しないようもうしばらくの辛抱です。

会話教室は4.5月の日程を延期、料理教室は4.5.6月の日程を中止して7月の開催予定に期待をかけております。  
事務局よりのご案内です。

## 大七酒造「輸出に取り組む優良事業者表彰」2019.12.13 キャピトルホテル東急にて 農林水産省食料産業局長賞 受賞6社に選ばれました “頑張る会員企業”



後列左から2人目が太田社長、前列右から2番目に安倍総理、その左隣に江藤農水大臣

大七酒造はいち早く輸出を開始して業界をリードし、独自性のある高級酒メーカーとしてのブランディングに成功、国際舞台での評価を獲得したと評価されました。表彰式には安倍総理、江藤農水大臣もご臨席されました。受賞の栄誉を糧に大七はこれからも頑張ります。

太田社長は「長年の努力が認められてうれしい。まだ日本酒が行きわたっていない国々にも今後広めていきたい」と喜びを語った。

(社内報 ぶるわーず—醸造家たち—Vol.95 より)

2018.2月には「ものづくり日本大賞」経済産業大臣賞を受賞。匠の技を大切に作る伝統から次々と名工を輩出してきたこと、独自の考えに基づくオリジナリティのある技術を磨いてきたこと、グローバルな視点に立って伝統技術で海外展開を進めてきたことが高く評価されました。  
(※Île de Bonheur 2018.4.5月号で紹介)

大七酒造は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う消毒液不足を受けて、消毒用アルコールの代替品となる高濃度エタノール製品を製造しました。酒かすを蒸留した「かす取り焼酎」を再蒸留して濃度を高めたアルコール度数70%、300ml入り500本を製造して(飲用不可表記で酒税対象外)。300本を県に贈り、200本は医療機関向けです。太田英晴社長は「消毒用アルコールが足りるまでつなぎの役割を果たしたい」と、話されています。

5月11日 県に寄贈



### art いわき市立美術館 企画展

#### ストラスブル美術館展 —印象派からモダンアートへの眺望—

5月21日(木)より開館、会期を6月14日(日)迄延長

アルザス地方の中心地にあるストラスブル近代美術館は、印象派から現代美術までを網羅した18,000点に及ぶコレクションで、フランス国内でも屈指の美術館と知られています。新型コロナウイルス感染症の影響で臨時閉館中、福岡市の巡回展が中止で所蔵元との交渉により再開が実現です。19世紀印象派を代表するモネやシスレー、20世紀の巨匠ピカソ、現地ゆかりの画家たちなど厳選された約90点の名品が鑑賞できます。



クロード・モネ [ひなげしの咲く麦畑]

■開館時間 9:30~17:00

■入館料 大人1200円、高大学生600円、小中学生300円

■お問合せ 0246-25-1111

## 私のフランス語日記

le 25 mars

Déjà un mois que j'habite à cette ville, mais elle sent rien. Je fais un tour dans la rue, qui a aucune odeur. Fukushima, c'était différente. Pour cela, j'ai eu l'habitude de voir au loin des montagnes par ma fenêtre du sixième étage.

Vers cinq heure de soir, le ciel bleu commence à se décolorer, je ventre chez moi, et je commence à ranger les lessives, ouvrir les courriers, nourrir mon enfant medaka etc. et j'entends un murmure des hijikis bien cuits.

Le crépuscule est arrivé, et je regarde avec une grande émotion la chaîne de montagnes, en respirant profondément de tout mon corps, comme si l'air de soir m'inspirait dans mes yeux.

Ô les nuages moutonnés

Vous et moi nous nous en allons

Comme baisse la mer,

Au loin, au loin.

Yukio

C'est bien sur le soir. Je me rappelle la parole de Mayol «Des mots, cela ne compte pas. Il n'y a pas de quoi avoir peur. Tout va bien dans ce monde»

En effet, bien au soir.

L'autre jour, mon oncle m'a apporté ce œuvre posthume de haïku de Yukio TSUJI.

En disant que “Tu a nommé une médaka Cogito ! C'est bizarre. Mais quoi qu'on dise, …ce serait just”, il a gloussé.

“Mais non, c'est mon ami qui lui a nommé ça”. Avec un peu de mauvaise humeur, je lui ai répliqué. Il a encore gloussé. Ma médaka devrait nous écouter. Plus tard je lui ai demandé pardon de notre plaisanterie. Elle n'avait rien dit.

Voilà, j'ai reçu cette lettre de mon amie M, qui habite à Osaka.

D'autre part, j'ai écrit sur mon séjour en France à la demande de cette Association, sans y présenter.

Reiko Onoda

3月25日

引越してきてひと月が過ぎたけれどやはり匂わない。道を歩いても、この町の匂いが感じられない。福島は土地の匂いがしてたのに。だから、夕方になるとこの七階の部屋から遠くの山々を眺める。

さっきまで青空だった空が、すこし遠のいていく五時ごろ。家に帰ってひと息いれて、洗たく物をたたんだり、郵便を開いて、あの子(めだか)に餌をやったり。むこうではひじきの煮える音がしている。

空が色づいてきた。遠くに山なみを見る。そして夕方の空気をゆっくり目から吹いこむ。からだじゅうに行きわたるように。

翺雲あの世へゆくときは背泳ぎでゆく

貨物船

やっぱり夕方なんだ。マイヨールがどこかで言った、

「聞かれりや答えるけど、たいていのことは言葉にできないし、もうこの世のことはみんなたいていいい意味でどうでもいいんだよね」って。

やはり夕方でなくちゃ。

先日そういえば、叔父さんが貨物船遣句集をもってきてくれたとき、

「おまえ、めだかにそんな名前つけてるの。ちょっとなんていうのか、もっともらしい名だなあ」

とわらうので、

「私がコギトなんてつけるわけないでしょ」と少しむきになると、またくすくすわらった。めだかはそれを黙って聞いていただろう。なんだかめだかに申し訳なくて、大丈夫だよってあとで謝ったのだった。めだかは黙ってきいていた。

こんな手紙が大阪のMちゃんからきた。

私は日仏から頼まれて私のフランスでのことを書いた。しかし、それは捨ててしまった。

会話教室受講生 小野田玲子



次回は、川崎豊さん、お願いします！

## 嵐の予兆

鈴木淑子

県現代詩人会理事  
福島日仏協会会員

すべての被害者は  
千枚の舌を持たねばならぬ  
そして その柔らかな舌で  
盲いた無知の同胞に  
その依って来たるところを  
語らねばならぬ  
災いをもたらした者たちの  
足裏に染みついた汚れや重さについて  
欺かれても気づかぬ  
同胞らの無知 無邪気さについて  
すべての賢い人たちは  
優れた視力を持たねばならぬ  
今起きていることを見 聴き 知ったことを  
余すことなく判断し 認識せねばならぬ  
世界中に巨大な竜巻が生まれつつあることを  
世界大戦の兆候が低気圧のように  
地球上を流れ始めていることを  
賢い人や老人たちは  
スマホやラインや通信機器で沸き立っている  
ポピュリズムやフェイクの混乱を抑えて  
「鶴の一声」の如く抜きん出て  
一声高く舞い上がり 鳴いてみせねばならぬ  
思いは叶わぬとしても 鳴き続けねばならぬ

(福島ペンクラブ五月会 二〇一九年五月号 掲載)

紙面上、一部(第三章)除いています。

## 「待ち遠しい春そして春の大イベント復活祭・イースターを迎える」



世界中で新型コロナウイルスの感染が拡大し、福島の街中も静かな春を迎えています。今年は桜が咲き始めてから気温が下がり雨も少なかったことから、例年に比べると長い期間桜を楽しむことができました。

小中学校の入学式には桜が満開でしたし、運転しながらあちこちで美しい桜そしてピンクの桃の花を楽しむことが出来、あらためて福島の自然の豊かさに感謝し、心が癒されたのは私だけではなかったと思います。

今年のイースターサンデーは4月12日でした。ヨーロッパをはじめアメリカやアジアの多くのカトリックの国では、長い冬から待望の春を迎えるお祝いとキリストの復活を祝う「復活祭」イースターを迎えるころ街中が賑やかになります。

特に、ヨーロッパのイースターはパン屋さん、チョコレート屋さん、スーパーなどいたる所に、大小様々な大きさの卵や鶏、ウサギなどのチョコレート菓子が並び、大人も子どももうきうきしながらそれらを買います。

家庭や幼稚園、小学校などでは、美しくデコレーションしたイースターエッグを作成し部屋に飾ります。春の花チューリップなども店頭並び、街は黄色や赤など明るい色であふれます。

カトリック教徒はイースターサンデーには家族でおしゃれをして教会に行き、帰宅すると家族でご馳走を食べます。

また、イースターにはあちこちで卵を色とりどりに装飾するイースターエッグデコレーション大会や花壇や樹木の影に隠されたイースターエッグを子ども達が競争しながら探しに行くイースターエッグハントといったイベントが開催されます。卵があちこちに隠してあるので見つけるととても嬉しく、子ども達とエッグハントした頃を思い出します。

来年は楽しい風景がヨーロッパをはじめ世界中で見られることを願っています。

佐藤美奈子



## 久美子の歳時記

### Jadore\_lesgateau (9)

皆様、お元気でお過ごしでしょうか？コロナによる自粛でストレスを感じていらっしゃる方も多いことと思います。さて、コロナの影響で小麦粉やホットケーキミックス粉が手に入りにくいこの頃ですが、今日は小麦粉なしで作れるグルテンフリーのお菓子をご紹介しますね。

#### <Madeleine 米粉でマドレーヌ>

フランスと言わず、日本中のお菓子屋さんが作っているマドレーヌはロレーヌ地方のコメルシーと言う街が発祥です。このお菓子の由来はいろいろ諸説あるようですが、マドレーヌという女性の名前が由来であるようです。

また、マドレーヌを貝殻の型で焼くのは、その昔、帆立貝がシンボルである聖ヤコブが祭られている、スペインのサンチアゴ・デ・コンポステラへの巡礼者に配られた？帆立貝の型で焼いたこのお菓子を持っていった？というような説があります。



江戸から明治時代に日本に伝わった、卵とバターの香りが優しいマドレーヌですが、焼き立てはまわりがカリっ！中身はふわふわ。

ぜひ、手作りならではの美味しさをご自宅で。米粉とアーモンドパウダーですりです。

#### ○材料 貝殻型で約 10 個 ※何の型でもつくれます。

卵	1 個
グラニュー糖	25g
ハチミツ	15g
米粉	30g
無塩バター	25g
アーモンドパウダー	20g
ベーキングパウダー	小 1/2
レモンの皮	1/2 個 (すりおろす)

#### ○作り方

1. 型に溶かしバター（分量外）をはけなどで塗り、米粉を適量ふりかけ、冷蔵庫で冷やす。
2. ボウルに卵をわりほぐし、グラニュー糖、ハチミツ、合わせてふるった粉類を順番に加え、その都度、よく混ぜる。レモンの皮も加える。
3. バターを湯煎等で溶かし、人肌より熱いぐらいでボウルに加え、よく混ぜる。
4. ボウルにラップをし、冷蔵庫で 1 時間～一晩休ませる。
5. 休ませた生地を型の 8 分目まで入れ、180℃に予熱したオーブンで 12 分～15 分ぐらい焼き、型から外す。

(料理教室受講生 本田久美子)

## スズランで思い出すパリの街

フランスがまだ国家統一をなし得なかった 16 世紀、5 月 1 日に宮廷の女性たちにスズランを贈ることを決めたのが、シャルル 9 世(在位：1561-1574 年)だと言われています。5 月 1 日は、フランスでもメーデーの日ですが、何よりもスズランの日(Jour de muguet)なのです。4 月に入ると、寒々としていたセーヌ河のほとりがいつのまにかやさしいグリーン色に染まってきます。その変化に、パリジャンは春の到来と喜びを感じます。

そして 1 か月後のスズランの日に、パック(Paques)と呼ばれる復活祭がやってきます。クリスマスに次ぐ祝日です。この日のパリはスズランに溢れ、スズランの香りでいっぱいです。恋人にはもとより、親しい人や家族の幸運を祈って、スズランを贈る習慣があるのです。

メーデーにもかかわらず、この日は花屋から 100m 以上離れていれば誰でもスズランを売ってよいという決ま

りがあるので、高校生、学生、主婦たちが小机を持ち出して即席花屋を開くのです。洒落たきまりですね。私も釣鐘状の真っ白い花弁とシャープな緑の葉に惹かれ、思わず財布を開いたものです。街のあちこちで、高校生がおぼつかない手つきでスズランの花束を包んでいる姿にも惹かれたものです。今年はコロナで大分風景は変わってしまったようですが。

会員 石堂常世 (早稲田大学名誉教授)



撮影：石堂常世  
スズラン以外の花鉢も合わせて売っています。